

第3回和歌山市産業戦略会議 会議録

- 1 日時 平成27年11月20日(金) 13:00～15:00
 2 場所 ホテルグランヴィア和歌山 6階「メゾングラン」
 3 出席者

委員名	役職
岡田 亜紀	菱岡工業株式会社 代表取締役
金子 英一郎	日本政策金融公庫 和歌山支店長
谷口 博昭	一般財団法人国土技術研究センター 理事長
デービッド・アトキンソン	株式会社小西美術工藝社 代表取締役社長
細江 美則	太洋工業株式会社 代表取締役社長
吉村 典久	国立大学法人 和歌山大学経済学部教授
和坂 貞雄	和歌山県工業技術センター 所長

4 議題1及び議題2に係る会議録

発言者	意見
A委員	<p>大変よくまとまってきたと思います。</p> <p>これをどうアクションプランに落とし込んでいくかが課題であろうかなと思います。例えば素案の69ページですと、リーディングプロジェクトの概要を一枚の図で示されているわけですが、確かにその通りだと思いますが、今後具体的なアクションプランに落とし込むときに、体制とその部門の役割及び責任の所在がどこにあるのかということを確認していかないと、このプロジェクトが絵に描いた餅に終わってしまうということになりかねないと思います。</p> <p>それと私の場合は、観光の方はあまりよくわかりませんので、産業を中心にしたところを述べさせていただいておりますので、ご理解いただきたいと思います。これから一番ポイントとなってくるのが、県との連携になってくると思います。おそらく県の産業技術戦略の中でもコネクターハブ企業やニッチトップ企業の育成が書かれており、そういった重複のあるところについては十分な県との連携が絶対に必要になってくると思います。特に産業の振興については、和歌山市がどれだけ県と一緒にやって、産業振興をしていくのかが一番のポイントになるかと思っています。</p> <p>それから、新事業創出と産業間連携の促進の中で、農林水産業の6次産業化の推進がありますが、6次産業化もいろんなところで使われていて、言葉としては大変きれいですが、実際にどういうふうにして6次産業化をしていくかは難しい問題であると思っています。国もそうですが、6次産業化の主体が1次産業者になっていると思いますが、これは間違っているように思います。1次産業者が主体になっていくと、どうしてもこじんまりしたものしかできませんし、本当に広い意味でのネットワークは築けないと思いますので、やはりここは、資金の豊富な2次産業あるいは3次産業が中心になって6次産業化を進めていくべきだと、個人的にはそう思っています。ただ、実際にはそうなっていかないような気がするものですから、その辺も少し6次産業化の促進については、配慮いただければありがたいと思います。</p>

B委員	<p>時間の制約もありますが、今回はスケルトン（骨組み）を固めさせていただければと思いますので、字句の訂正や書き忘れは次回でもいいかもわかりませんが、遠慮なく言っていただければと思います。</p>
C委員	<p>色々な提案がなされていて、かなりまとまっていると思います。私には自分のところの分野しかわかりませんので、どういう形で自分の会社に関われるのかということが大きなテーマになってくると思います。観光あるいはひと・まちの形成というところについてはなかなか一企業としてどういうふうな形をすればいいのかは難しいと思います。</p> <p>産業といえば、コネクターループ、ニッチトップ、オンリーワン企業など、成長が見込まれる企業を発掘して、成長を促すということだと思いますが、これは1社で頑張るのもいいですが、トータルで頑張っていくということで、そういった企業とのコラボレーションが図りやすいような仕掛けを作っていただくということが大事かと思っております。</p> <p>展示会は私どももあちこちで出展していますけれども、そういうことをもう少し地域ぐるみでできないのかなということと、先般申しましたが、一番手っ取り早いのが、今日本で不足しているコンベンション関係の方に力をいれていただければというふうに思います。閑空もだんだん充実もしてくるようですし、このコンベンションについてこの和歌山が頑張ってくれば横の連携ができる、もちろんこれは国内だけではなく海外の企業とのコラボレーションもしやすくなるのかなと思います。入れ物を作っても、それを活用する施策が大事で、コンベンションセンターがたとえできたとしても、それだけでは展開しにくいですけれども、今日本で遅れていると思うのがやはりコンベンションシティの考え方でございますので、それに何らかの形で関われないのかなという感じがしております。そこから次の展開がでてくるように思います。</p> <p>今日明日にコンベンションセンターというのはお金も広大な土地も必要ですから、難しいですが、とりあえずは他の会社とコラボレーションをやるためにもっと我々自身も県内市内にある会社を知って、何かそこから一緒に出ていけるものはないかということを考えていく必要があるのかなと日々思っておりますが、さらにこの考え方を充実させていく必要があります。そして各社がそういう思考を持てば、広がりが出てくるような気がしております。</p>
B委員	<p>コンベンションセンターはどこかに書き込んでおられるのですか？ 前回はC委員から意見がありました、今回は入っていませんか？</p>
事務局	<p>はい、直接コンベンションセンターの設置という表記では書いておりません。</p>
B委員	<p>では、また検討していただければと思います。</p>

D委員	<p>2つあります。1つ目は、さきほど話のありましたように、和歌山県と和歌山市の観光戦略について、うまく連携をとる必要があると思います。他のところを見ても、県という考え方がないと、市だけではなかなか人が来ないという問題もあります。コストの問題もありますので、両方合わせてやるのがいいのではという感じがします。</p> <p>2つ目は、観光戦略に関しては、引くところもなければ加えるところもないですが、唯一あるのは、やはりホテルの誘致をどうするのかというのが一番大きなところかと思えます。特に和歌山市ではないのですが、和歌山県下のいくつかのホテルの視察に行きまして、実際見るとやはり、LCCが増えたということで、LCCに乗るような客層は十分来ていると思いますけれども、それ以外の客層があまり来ていません。来ない最大の理由はホテルの質の違いというのが一番大きいです。この前も探してみましたが、和歌山にそれなりの値段のホテルがないので、そうするとそれなりの値段を払うお客さんも来ませんので、その循環のところはどう解決していくのかと思えます。</p> <p>これは和歌山市や和歌山県のみならず、ほかのところも見てみますと、たくさんの人をできるだけ安くという戦略でやってきた日本の観光業ですので、和歌山市としてその形を維持していくのか、多少それを調整していくのかということを考えて、それによって誘致するホテルのターゲットを変える必要があるのではないかと、これを見て感じました。</p>
E委員	<p>まず、A委員がおっしゃったとおり、1番目の既存産業の更なる成長促進の1-1では、これは県の政策でも一丁目一番地になっておりますので、県ともしっかり連携して、和歌山県をリードするような恰好で、バラバラにならないような政策に落とし込んでいく必要があるというのが感想です。</p> <p>また、全般的な産業振興ビジョンですので、サービス産業の生産性向上も非常に大事なことだと思います。サービス産業はまちづくりの中心にもなってくるので、4-3のところの交通インフラをどう整備するかによって、商業集積のでき方も変わってくると思います。単独で考えるのではなく、面としてどのような商業集積、産業の振興を図っていくかというのが、サービス産業の分野では必要になってくるのかなと思います。</p> <p>それから2の新事業創出と産業間連携のところも、県はベンチャー、稼ぐ部分を主眼に産業技術戦略を策定しておりますが、市としてはやはり「まちづくり」の観点も重要になってくると思いますので、この戦略の中にありますように、女性であるとかアクティブシニアであるとか様々な層の方が新しいビジネスを、小さくてもいいので、創出するという方向性は、市の産業振興としては必要な方向かと思えます。</p> <p>それからブランドやコラボレーションの話で、3番のブランド力のところにつきましては、これもA委員がおっしゃられていましたが、和歌山「市」としてブランド力の強化をやっていく必要もあるのかなということです。近くでは、橋本市がブランド室を設置しており、県によってはブランド推進課という形で、首都圏等での商談会等に出展するときには、個々の企業のブースではなく、県全体あるいは市全体として、ブースを運営するようなところもございます。そういった形で、一つ一つの個々の企業ではなく、和歌山市全体として和歌山市を売り込むようなブランド化をしていくとよろしいのかなと思っております。</p> <p>外国人観光客についても、色んなところで議論されていますが、中国の爆買いがどこまで続くかわかりません。そういった中では、D委員もおっしゃっておりますけれども、色々とお金を落としてくれるような欧米人に対する魅力をアップさせることが</p>

	<p>必要で、そうなりますとこちらの案にもありますけれども、広域的な観光も必要かもしれません。体験型観光については、九州では、済州島が発祥の「オルレ」というものを参考にして体験型のゆるいトレッキングをしながら買い物もできるようなコースを作って発信するといった取り組みをやっているようです。また、モンベルさんが中心になって、鳥取の皆生温泉から大山までのSEA TO SUMMITというのをやっております。海から始まって山までいくサイクルトレッキングイベントですが、和歌山でも、紀の川沿いを通って高野山などに行くといったこともできるのではないのでしょうか。いずれにしても、和歌山市が周辺市や県内観光の基点となって、「ベースキャンプ化」するというのも魅力的な方向性かと思っております。</p> <p>やはり女性・高齢者も働きやすい職場作りや、いろんな層の人が多くそのまちに存在することが、人口減少の歯止めもありますし、全体的な地産地消にも役立っていくのかなと思います。地産地消の「消」を消費の「消」としておりますけれども、消費する人は別段地元の人ではなくてもいいのではないのでしょうか。地産地「商」と、商いの字をあてる方もいらっしゃいます。地域で生産したものを地域で商いするといったことで、地域外の人にも買ってもらう。そのためには、ブランド力が必要となってくるのではないのでしょうか。地元の商材を、商いに結びつけるような施策が必要だと思います。それについては、和歌山駅のところに地場産センターを設けるというような施策も案に入っておりますので、産業振興ビジョンもいい形に仕上がってきているのかなと思います。</p> <p>ざっばくな意見ですが、内容を見て気がついたことを述べさせていただきました。</p>
B委員	<p>地産地消ではなくて、地域だけで消費するのではなくて、地産多消という考え方もありかと思えます。自分のところで採れた地場のものを、地域の閉じた中で消費するというのはやはり広がりがないので、地産地消を「地産多消」と言う人もおられます。</p>
F委員	<p>第2回の会議に出席出来ず申し訳ございませんでした。</p> <p>資料を拝見しまして、A委員もおっしゃられておりましたけれども、素晴らしいことが書かれていると感じましたが、実際一体誰がどこでどのように進めていくのか、盛りだくさん過ぎて私自身ついていけないと感じたのが率直な感想でございました。</p> <p>中でも私の実体験で、こういうところはどうなのかなというところを述べさせていただきます。まずこれもA委員がおっしゃっておられましたが、6次産業化というところで、私は菱岡工業の代表もしておりますが、障がい者の就労支援を行うNPO法人の理事長も務めてございます。そちらの方で障がいのある子たちと、和歌山の特産品を盛りだくさんに使ったチョコレートの専門店をオープンさせてまいりました。それを立ち上げるにあたっては和歌山県の「元気ファンド」を利用させていただき、その折には工業技術センターにも大変お世話になりました。ですが、取り組む際に1次産業の方とどう結びついていけばいいのかわからず、色んな方に紹介していただいて、たどり着くことができましたが、そういう方との出会いや、仕入れなど、素人であったので、一体どこと連携してどのようなことをすればいいのかということを描みきるまでに随分時間がかかりました。けれども、おかげさまで今、例えば、和歌山の山椒とチョコレートや、醤油とチョコレート、果物等も盛りだくさんにした和歌山の誇れる特産品とチョコレートという珍しいものを作ることができ、大変ご好評いただけるようにはなりました。実際、色々なアイデアをお持ちの方はいら</p>

っしやるとは思いますが、いいご縁を掴める人ばかりではなく、なかなかご縁を掴みにくい方もいらっしゃると思いますので、マッチングできるような環境づくりが大事ではないかなと思いました。

また「元気ファンド」で補助もいただいたのですが、いただくハードルも結構高く、いただいたお金の使い方も制限されています。私も本業がありますので支援しながらなんとかできましたが、何もないところから一から起業してということを考えていらっしゃる方にとっては非常にハードルが高いというふうに感じました。

観光のことですが、私は和歌山市の人事委員会の委員も仰せつかっています。先日の面接の際に、他の委員の方が、「もし他府県の方や海外の方がこれらたら、市役所から和歌山市のどこを観光で案内しますか？どんな道順でどんなふうに案内しますか？」と質問をされました。するとスムーズに答えられる方が非常に少なく残念に思いました。だいたい挙がってくるのはお城、紀三井寺、片男波など、素晴らしい所ではありますが、単純な回答しか返って来ず、若者に和歌山の魅力が伝わっていないのが残念に感じました。では私自身はどうなのかと申しますと、他府県の方をご案内する機会が多いのですが、和歌山市内での滞在時間を聞いたときに、その滞在時間内にどういうルートで案内すればいいのかというプランを、自分で練ったり、市や県の観光パンフレットを参考にしたりしますが、どれも盛りだくさん過ぎてどう案内していいのかというところがあります。ラーメンマップのように1枚で何分コースといったようなものがあればいいのにといいながら先日も案内させていただきました。色々いいところがありますが、もっとピンポイントで案内しやすくなればいいというふうに感じました。

女性や高齢者の活用ということですが、先般女性の方で、チョコレートの専門店に働いてくれる人を探すにあたって、ハローワークにも相談にあがりました。ハローワークも今、マッチングや働き方改革など色々なことに取り組んでおられますが、その肝心のハローワークで、専ら福祉事業を行っているこのNPO法人の求人は、福祉事業に関心のある求職者しか見ることができないようになっています。例えば女性に関心のあるカフェでの求人として見てもらおうと思っても、カフェで求人を探してもこのNPOは出てこず、福祉事業の分野を見てもらわないと出てこない状況です。働き口を広く見てもらい来てもらえるようにしようと言っている割にはすごく制限されていて、こちらが欲しいと思うような人材とはなかなかめぐり合えないといったこともあります。和歌山市だけの問題ではなくて、ハローワークをはじめ他の機関との連携が非常に重要であると思います。

それから少子化のところ、自身がこの年齢になって子どもが欲しいなと思ったときには少し難しいなという年齢になったというのが現実です。高校生や大学生の前でそういったお話をする機会があったときに、「子どもを産むということはどう考えていますか？」など女性が多い場合に聞いてみることはありますが、いつでもできると思っている人が非常に多く、実際は私自身もそうでした。テレビを見ると45歳ぐらいの芸能人の方の出産などを見かけるので、それぐらいまで普通に授かれるものなのかなというぐらいにしか思っていませんでした。子どもを授かれるということは奇跡的なことであって、それがどんなに大変なことなのかということを、学ぶ機会が案外なかったというのを思っていて、最近はそのような教育もされているのかと思い高校生などに聞きますがあまりないようですので、実態を知らない女性の方がまだまだ多いということを感じます。やはり高校生や大学生などの若いときに、子どもを授かることや命の大切さについての学びというのが、大事ではないかと思いました。

G委員	<p>大学で経営学を教えているという立場からコメントさせていただきますと、PDC Aサイクルをどう回していくのかという点は気になるところです。今の段階ではビジョンですので結構かと思いますが、この後、アクションプランに落とし込まれる際には、KPI（重要業績評価指標）を考えられる際、なんと申しますか、ぜひお金儲けに結びついているような、指標を設定していただければと思います。例えば、和歌山市内には無料の観光地が多いと思いますので、無料であったところを有料化した率や数が増えたというようなことも一つかと思いますが、有料化するという事は当然ながら値打ちをつけないといけませんので、儲かりに繋がるような指標の設定が、アクションプランのような個別具体なところであるといいのではと考えました。</p> <p>各委員から、表現は連携であったりご縁や結びつきという言葉で話はありませんでしたが、県内あるいは域内の企業であったり、第1次産業・第2次産業・第3次産業の結びつきであったり、連携ということが当然のように重要であると思っております。一方で逆に言いましたら、和歌山市は、これは一所懸命にやります、ただこれは単独では頑張れないので一緒に連携しますという形で、メリハリをアクションプランの段階ではつけていただいた方が、あれもこれもやります、さらに連携も行いますでは、リアリティがありませんので、その点についてはご検討いただければと思います。</p> <p>経営戦略論などという授業を教えていますと、人の心に響くようなストロングメッセージを出しましょうと、このビジョンであったり、各企業レベルのビジョンであったり、事業レベルのビジョンであったりはありますが、例えば日清食品という会社がアフリカへ即席めんを売ろうとしています。そのときの企業ビジョン、事業ビジョンが何かというと、別に「即席めんを売りたい」ではなく、「アフリカから飢餓をなくす。そのお手伝いをするのです。」というものです。考えてみると高カロリーで輸送が簡単で熱いお湯さえあれば食べてもらえるということで、中長期でそれを食べ続けるということについて議論はあると思いますが、短期的には飢餓の問題を解決する商品であると思います。という意味において飢餓をなくしたい、これが考えですと言われると、単にマーケットが伸びているアフリカで売上を上げるということよりは余程インパクトはあるのかなと思います。ですので、進めていかれる段階では、何か、市民の皆さんや、市役所の方、関係の方に響くようなメッセージが1つでもあるといいのかなという事は思いました。</p> <p>あと次は、和歌山大学の教員という立場から申し上げるのですが、和歌山大学としては文科省との関係もありまして、やはり学生にいかにか地元に戻ってもらうかが求められておりますし、それは地方国立大学のミッションとして重要であると考えております。こういった点でアクションプランの中でも、より連携ができればと考えてございます。</p>
B委員	<p>今までの所で市の方から何か補足説明等がありましたらお願いします。</p>

<p>市長</p>	<p>多くの意見を頂きましたので、私のところで答えられるところは答えさせて頂き、考えも述べさせて頂きたいと思います。</p> <p>まず、今後、アクションプランへ落とし込んでいくときの、体制・部門の役割については、何もかも市でやれる訳ではないので、アクションプランの検討に際しては、県との連携が重要と考えています。県の産業技術基本計画との連携では、一緒にやる部分と補強しあう部分があると思っておりますので、その点についてはまず行政間で連携していきたい、その上で民間と合わせた形でやっていきたいと考えております。</p> <p>それから、農林水産業における6次産業化についても、JAさんが主体になってうまくいった和歌山ジンジャーエールをはじめ、他にも色々な形で出てきていると思いますが、2次産業・3次産業が主体になっていただくことは重要でありますし、縁がない人はハードルが高いと思いますので、ご縁を作るきっかけづくりは今後の連携の中で検討していければと思います。</p> <p>また、コネクターループ企業やニッチトップ企業がコラボレーションしやすいように働きかけることが大事という意見についても、県と連携して取り組んでいきたいと思っております。それからコンベンションの話ですが、これは見本市のようなコンベンションのイメージでしょうか？</p>
<p>C委員</p>	<p>日本におけるコンベンションセンターの貧弱さというのが非常に問題になっておりまして、大阪にもありますけれども、世界規模から見ればコンベンションセンターと呼べるものではないと思います。ですので、コンベンションセンターについて何らかの形で提案できないかなと思っております。</p> <p>関西国際空港は今度オリックスが運営権を持ちまして、あの会社はやる気十分ですので、例えばああいうところと組んでコンベンションセンターができないかなと考えていまして、そうすると人が寄ってきますし、コラボレーションも世界的なレベルでできるのかなというふうに思います。</p>
<p>市長</p>	<p>和歌山市でどこまでできるかというのがありますが、検討できたらと思います。</p> <p>それから、観光での県と市との連携については、和歌山市は県庁所在地なので、まずはやはり和歌山市で県全体を案内できるビジターセンターのようなものが必要だと思っております。和歌山城に来たら県全体の観光が分かるというような和歌山城にすべきであるし、またJR和歌山駅の下わかちか広場で、県内の観光や地場産品のことが分かるなど、県庁所在地としての県全体への役割というものがあるのではないかと考えています。</p> <p>ホテルの誘致についてですが、外資系の様な宿泊料の高いホテルの誘致には、和歌山市が今後、京都市のように客のターゲットを選べるかというところが問題かと思っています。その辺は、状況を見ながら、ターゲットを選ぶのかどうかというところへ入っていききたいというふうに考えています。</p> <p>また、県の産業技術基本計画は主に産業技術の目線であるので、市としてはサービス産業をしっかり支援してはということですが、サービス産業、特にまちづくりとも関係してくる商業、福祉というところは市の方でもしっかりと充実させていきたいと思っております。</p> <p>市としてのブランド力の強化については、橋本市のブランド推進室のように、組織体としてブランド力に力を入れるということも必要かと思っております。</p> <p>また、このビジョンが盛り沢山で、誰がどこでどのように進めていくのかというこ</p>

	<p>とですが、来年度のアクションプランで、誰が、いつ、どこでどうやるというところまで落とし込んでいきたいと考えています。</p> <p>観光コースについては、色んなコース、色んなオプションがあると思いますので、そういったオプションに合わせたコース設定ということが必要ではないかと思えます。</p> <p>PDCA をアクションプランに落とす際に、稼ぐということにつながるような指標を KPI に設定してはどうかということについては、その部分は本当に大事だと思います。和歌山歴史館の入場料が100円では安い、1000円くらいにしてはとも言われますが、それは高ければいいというものではないですけれども、あまりにも安いと確かにそこで価値判断をされてしまうおそれもあるので、その価値に見合った価格というのが必要ではないかというふうに思います。</p> <p>少しざっぱくな回答というか考えになっておりますがよろしくお願ひします。</p>
B委員	<p>ありがとうございました。市長から丁寧なコメント頂きました。</p> <p>私の方からもいくつか発言させて頂ければと思いますが、産業戦略の4本柱で、G委員からお話のあったような、稼ぐ力ということは具体的に観光のところに書いて頂いていて、1本目の柱の付加価値ということも書き込んで頂いていて結構ですが、F委員の誰がやるのかと言う話であるとか、前回C委員から提案があったことを反映出来ていないのは何故か、また前回C委員から予算はどうかなどという厳しめのご意見もあったことは気になりました。</p> <p>いずれにしても産業の部分は民が主体になるというところは基本だと思います。県との連携もそうですが、連携と書くのがいいのかパートナーシップと書くのがいいのかはありますけれども、例えば58ページの(3)の次にでも、稼ぐということを共通コンセプトに、パートナーシップで市がやるべきことは市がやる、行政がやるべきことはやる、民がやるべきことはやる、そういうような県との連携もそうですが、そういうのも少し(1)(2)(3)ではなく、(4)番目にその共通事項として書き込んではどうかと思ひます。先程G委員が言われた経営戦略のコンセプトで、パートナーシップでやっていくというところで、事業に応じてプロジェクトにおいて担い手がそれぞれ産学官連携しながらやるという精神ではどうかという感じがしましたので、G委員の所でも少しご検討いただければという感じがいたします。</p> <p>それから、リーディングプロジェクトを受けてアクションプランに移行するということですが、このリーディングプロジェクトという今の整理の仕方ではどうかということが少し気になるころではあります。「戦略具体化プロジェクト案」というような形で表現を工夫し、アクションプランとの関係性を書き込んでおいた方がいいのではという感じがいたします。</p> <p>それから、和歌山大学との連携は書かれておりますが、CCRCを入れてくれておりますので、和歌山県立医科大学との連携についても固有名詞で書いておいた方がいいのではと思ひます。</p> <p>もう一つは中央市場が動き出しているのであれば、リーディングプロジェクトかどうかかわかりませんが、具体的に書ける範囲で書き込んでいただければと思ひます。</p> <p>また、D委員に質問といたしますか、市に質問でもいいのですが、ホテルの話は私もそのような感じがしてござりまして、天皇陛下が国体に来られて泊まるのが南部ロイヤルであるとか、皇太子殿下がインターハイで来られて泊まるのがアバローム紀の</p>

	<p>国というのを聞きまして、少しこれは寂しいことではないかなという感じがいたします。例えば、新和歌浦には泊まる場所が少ないということですが、ロケーションとしてはいいと思います。これについてはいかがでしょうか？</p>
D委員	<p>先ほど市長の発言にもありましたように、客層を選ぶ・選ばないというところはありますけれども、実際には知らずに人を選んでいるのです。どういうふうにならざるに選んでいるのかというと、提携しているホテルが値段設定を行って、LCCを飛ばしていることによって、結局そういう値段設定の人たちのためのサービスを提供することになり、なおかつ観光施設等を100円にしたり300円にしたりするとやはりそういう人たちが中心に来ることになります。選んでいないように見えても実は選んでいるということがポイントであると思います。今の世の中ではホテルというのは、どういう人に来てほしいのかというところで、どういうホテルを用意して、どういう楽しみをいくらで提供するのかによって、ほとんどセットとして提供されるものですので、だいたいどれぐらいなのかというところに対してそれにどう応えるかであると思います。</p> <p>関係ないことではありますけれども、今週白浜に行きましたが、現状では高級なホテルが来るかと言えば絶対に来ません。ただ、高級ホテルに来て欲しいということであれば、あの中の一部について色を塗り替えさせるであるとか、一部を辞めてもらってどいてもらうようなことをやっていけば、変えられないことはないと思います。魅力はそれなりにあるのですが、今はそれに対してどういう商品を提供しているのかというだけの話ですので、結局その問題に必ず戻ってきます。今あるからこれしかできない、今はこれしかないからこういう人しか来ないというのでは、自分たちで決めている循環だけであって、和歌山もそうですが、やろうと思えばよりよいホテルの誘致はできるのですが、結局やりたいかやりたくないかの話だけなのです。外資系ホテルが来ると、その外資系の固定客が自動的に来ますので、そのメリットはあります。それは考える価値があるという気はいたします。</p> <p>先日、東京で投資家向けの観光の講演会があったのですが、全世界からいろんな人がそのために来ていました。日本の観光で、どこで何をどう稼ぐのかということに興味をもっている人はたくさんいますので、そう難しい話ではありません。日本は先進国、下手をすればこの地球上で唯一の開発されていない観光地になりうるわけですから、そのチャンスをどういうふうに活かせるかがメインではないかと思います。ただ、和歌山県全体で見ると、低所得層向けの観光が多い感じがしますので、市長としてはそれでいいのかそれを変えるのかというご決断のところではないかと思います。</p>
市長	<p>今のホテルの問題から行くと、確かに和歌山市がどれだけのお客さんに選ばれるか、お客さんに選ばれることによって誘致するホテルも決まってくるのではと思いますが、ポテンシャルは持っているのですからその魅力をどう発信していくかが大事であると思っています。十分な価値があるのでそれに見合うホテルを誘致していけると思いますので、その辺もしっかり検討していきたいと考えています。</p> <p>それから、中央市場は、そのまま中央市場として建て替えるのではなく、やはり観光市場的な要素も入れた中央市場を建設していきたいと思っています。</p>

B委員	<p>私が新和歌浦の話を持ち出したのは、ここにも中心市街地、ぶらくり丁を意識して書かれているものと思いますが、やはり廃れたまち、廃れた観光地がそのままというのはイメージが悪いので、方向性を出して、整理するなら整理する、再整備するのであれば再整備するというようなことが重要ではないかという感じがいたします。</p> <p>それから稼ぐということで行きますと、経済的にもぶらくり丁でいけばぶらくり丁の土地を持っている人とそれを借用して業を営む人とが別の形態が多いのだろうと思いますが、それは別にして、資産をそのままあの状態で置いているということが、資産を持っている人にとっても、稼がないという点で、罪だと言っては言いすぎですが、問題であり、そのことを許しているということが、市民や市としても問題であるというようなコンセプトを強く言わないと、産業ビジョンを作ってもぶらくり丁がそのまま何をやっているんだということになりはしないかと思います。新和歌浦もぶらくり丁と同じようなところがあって、和歌山はお城もそうであるように何もしないし、過去の徳川御三家の江戸時代のままではないかという言いすぎですが、取り残されたというようなところを何とか打開する意味でも、そこをなんとか手を入れて、伸びている状態にするのが重要であると思います。アクションプランの問題でもあるのかもしれませんが、そういうような精神を市の中でご検討いただいて書き込めれば、G委員からも意見のありましたように、力強いものになるのではと思います。</p>
D委員	<p>それと関係しますけれども、日光の例ですが、日光東照宮に向かったの表参道に以前この問題がありました。店を経営していた人が高齢化することによって、結局廃業してしまい、廃業してしまうとずっとその店の上に住んでいることで、どいてもらえないということがありました。先日和歌山市内の若い人のグループで、市内の商店街でもまったく同様の話を聞かされました。今の資産を活用してない罪というまさしくそういう問題が、日光でもありました。日光では幸いなことに、その土地が日光東照宮の土地であったということで、大変な反発があったにもかかわらず、解約をしたりどいてもらったりをして、色々な人に土地や施設を返してもらいました。返してもらえれば、やはり新しいお店がどんどん出来、若い人も入ってきますので、死んでしまった誰も通らない表参道がいきなり蘇るという事例がありました。ホテルも温泉も同じような問題がありまして、高齢化して廃業はしても手放してもらえないという点については、やはり県と市がマイナスなのでどいてくださいということでプレッシャーをかけてもらうなど、この世代交代の話は重要でありまして、それは行政でないと解決ができないということが日光の事例でよくわかりました。成功するとは限りませんが、それしか手がないという点は、全国に共通する問題ではないでしょうか。</p>
B委員	<p>そうだと思います。今問題になっているのは人口が減少する中で、商売ではなくて、観光地でもなくて、空き家対策をどうしていくかというのが大きいと思います。社会保障に大きなメスを入れられない限り、うまくいかないと思います。その精神は、社会保障を高齢者から若者へどううまくシフトしていくかということに尽きると思います。投票率は高齢者の方が多く票を持っているため、なかなか政治の問題として動きにくい状況があります。よってこの問題は与野党で大きな決断ができるかということが問われているわけで、そこを外してしまうと、うまくいかないと思います。</p> <p>ここでは扱いきれないと思いますので、先ほどのパートナーシップという点で、老若男女とか、パートナーシップ精神というところを書き込めれば、書いていただければと思います。もう一つ質問ですが、クルーズ船の誘致の実現可能性はどうですか。</p>

	和歌山港の水深で、どれくらいの大きさの船が入ってくるのか分かれば教えてください。
市長	クルーズ船は、飛鳥Ⅱは入って来ていますし、5万トン級のイタリアのコスタヴィクトリアも入ってきています。水深は13メートルで、10万トン級まで可能です。あとは港内で回転できるかということですが、船によっては10万トン級でも可能ということで、さらに大きなクルーズ船の誘致も検討しているところです。
F委員	和歌浦の話ですが、和歌浦の景色は他の県にもないようなすばらしい景色だと思っています。別府温泉の棚湯に行きましたが、すごい人で海外からの観光客も多かったのですが、そこから見える景色はすごいことはすごいのですが、和歌浦のほうがすばらしい景色で、今は寂れていますが、ポテンシャルは十分に持っていると感じました。以前に青年会議所で、韓国のメンバーを和歌浦のある旅館に招待したのですが、料理に地の美味しい魚が使われていなくて残念な思いをしました。このような状況を改善して、「星のや」のようなところが来てくれるようになり、豪華客船が来て高いホテルにも泊まってもらえるようになって欲しいと思います。
市長	和歌浦の活用は課題であると思っています。周辺整備では、できるだけ海岸線が使えるように、遊歩道なども連続させて、歩行者も、自転車もサイクリングロードで走れるようにするなどの整備は行政としてやってきましたが、旅館、ホテルをどうするかまで及んでいなかったというのが事実であります。商業、旅館、ホテルは民間でやるべきだとの意識が強く、なかなかそこに行政が入るのに抵抗感がありましたが、これからは空き店舗、旅館の活用には、行政の関与が重要だと思います。
A委員	<p>産業振興ビジョン素案の67ページに書かれている、「コーディネート機能の整備」ですが、産業にとっては、新たなシーズを求めたり、新たな製品を開発したりするためには、このコーディネート機能は重要になってくると思います。特に和歌山の場合には、和歌山大学システム工学部、県工業技術センター、近畿大学生物理工学部、御坊の和歌山工業高等専門学校がありますが、この4者だけでは、なかなかシーズを発掘して、シーズを全国レベルまで引き上げていくことや、企業に落とし込むこと、それをもって企業がニッチトップになろうとするところまではなかなか難しいと思います。</p> <p>そこで、工業技術センターとして考えているのが、国の機関、すなわち産総研（産業技術総合研究所）、ここの連携を図る必要があると思っています。先週、産総研の関西センターに、理事長が来られまして、いかに今後、近畿圏の各公設試（公設試験研究機関）と産総研が結びついていくのか、連携していくのかとの話がありました。産総研の方がどんどん和歌山に来てくださいというのが私の要望で、和歌山の公設試でやっている仕事というのは、企業支援のところまで手一杯になっていて、なかなか高度な研究まで取り組むことは難しい状況にあります。そういうことで産総研の技術者に和歌山に来てもらって、こんなシーズがある、こんなシーズがあればこんなことに使えるなどの紹介をしてほしいとの話をしました。企業間の橋渡しだけでなく、国の機関との橋渡しまでを考えたコーディネート機能がないと、抜本的に和歌山の産業力を鍛えるということにはならないと考えます。</p> <p>これは工業技術センターの責任であるとも思いますが、これからは国の機関、例え</p>

	<p>ば、産総研、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）との連携など、国に直結した機関との強力な関係を結んでいきたいと思っておりますので、ビジョンに強烈に書き込んでいただけたらと思います。</p>
D委員	<p>32ページの女性、高齢者の就業率の箇所ですが、前にもお話したとおり、これには賛成できないところがあります。そもそも和歌山は全国平均よりも低いですが、多少低くだけであって、この問題というのは、諸外国と比べて、別に日本人の女性の参加率は低くないということです。H19からH27までの間に、女性の参加率は高くなってきて、ヨーロッパとあまり変わらないようになってきました。それよりも問題なのは、今週の日経新聞に載っていましたが、男女の平等ランキング、145カ国中、日本は101位だったと思います。具体的な数字でいきますと、日本人男性の平均給与は511万円、それに対し女性は220万円程度だったと思います。このギャップがOECD各国の中で下の方、先進国の中で最下位となっています。和歌山の参加率を例えば70%にまで引き上げたとしてもそんなに大きな数にはなりません。それよりも諸外国の場合は、男女の給与比率が7割から8割であるのに、日本はそうっていない。この議論になると、女性はパートやバイトが多いからという雇用形態の話になりますが、そういう形式論ではなく、そもそも戻ってきた女性が任されている仕事というのが、非常に低賃金の仕事であるという現状があります。出産などから復帰した後に、低賃金の状態に戻ることがないような支援をするべきだと考えます。この方が、半分の給料を70%まで上げて、かつ6割の女性に当てはまるものであるなら、経済効果は抜群になるものと思われまので、参加率よりも、こちらの方に議論をシフトさせていった方がいいのではと考えます。国の方でも同じような議論をしていますが、70%を72%というどうでもいいような目標を立てていますが、72%にして今の給料を倍にするというのであれば分かりますが、半分の状態で、2%上げたからといって、何の経済効果もないと思います。ぜひ、和歌山県から、人が少ないということで女性のフル活用について、県と市で考えていただければと思います。</p>
G委員	<p>今、おっしゃられたとおりでと思います。確か、女性の管理職の比率は、和歌山県が全国で一番低かったのではと思います。今お話のあった責任のあるポストについていないという率は、県ですが相当低かったと思います。参加率を数パーセント上げるよりも、責任ある立場を増やす方が、トータルとして、例えば家庭に入る所得を考えると大きくなると思います。就業そのものをしやすくするとともに、就業した後、いかに責任ある立場に就いてもらうかが課題ですが、ただ、そうするためには企業側へのサポートもないとなかなか難しいという現実があります。女性によく働いてもらって、なおかつ能力をきっちり活かしてもらってそれなりの所得を得てもらうという書きぶりになるのかなと、そうすると企業側の負担をどうするのかということを検討するのも重要なのかなと思います。</p>
D委員	<p>確かにそういうことをする会社に対して県や市から支援するとか、既存の企業では理解がないため、起業してもらうというのもいいと思います。自分の会社の経験で説明しますと、75人の社員がいて、経理をやっていた人が5人いて、全て女性でした。あたかも江戸中期のような、そろばんが出てくるのではと思うような方法で経理をやっていました。そのやり方を変えることによって経理を1人にする事ができました。そして、他の4人の女性たちをより付加価値の高い仕事に配置転換することがで</p>

	<p>きました。当然ながら会社としては売上を伸ばすことができ、その女性たちも今までとは違う高い給与体系に変わることができました。このようなことを国全体ですればいいと思いますし、それができないのであれば、女性の起業を促すなどして新しい環境を作る等、女性のパワーを発揮してもらわなければ、この問題は解決できないと思います。</p>
A委員	<p>私も職場における女性の起用を促進していただきたいと思います。ただ、工業技術センターの現状を申し上げますと、女性の研究者が10名いまして、全員で55名なので、約2割ということになります。ただ、既婚率は高くありません。仕事によっては結婚しにくい、結婚しても子どもを持ちにくいという問題があります。これを解決しなければ、女性の給料を上げるだけでは、問題の解決にはならないと思います。女性の職場における地位を高めると、結婚はできない、子どもを産めないということになってくるので、これを合わせて考えていかないと、女性の就業率の問題は解決できないのではないかと思います。D委員の発言のように、給料を上げるのは非常に大事だと思いますが、管理職、責任のある立場になってくると、なかなか子どもを持っていないということが起こっているので、こういった状況を抜本的に解決しなければいけないと考えます。</p>
F委員	<p>当社は男女で給料の差を設けていません。女性でパートでも正社員を超えるくらいの仕事をできる人がいて、正社員への切り替えを勧めるのですが、県民性なのかどうか、責任ある立場になりたくないという人が多く、その結果、残念ながらうちの会社では女性管理職は1～2名です。逆にどうしていきべきなのか教えていただきたい。子どもを持っていないという話ですが、実際当社も産休、育休を取得してもらっていますが、その間、その部署に人が空いてしまうため、誰かを入れなければならない。そうして復帰してくる場合、帰ってきた人は久しぶりであるし、代わりに配属された者はまた異動することでメンタルに問題が生じるといったことが起こる可能性があります。このようなことへのいいアドバイスがあればお願いいたします。</p>
D委員	<p>ゴールドマンサックスにいたときに同じ問題がありました。外資系企業ですから、ノルマとして、本社の方から女性を何割にのしなさいという目標がきます。給料が高いか低いかが問題ではなく、与えている仕事は何かということが問題で、その結果としての給料ですので、給料を高くするだけの問題ではありません。ただ、日本人女性からは、5時で帰りたい、そこまでの仕事をやるつもりはないと結構言われていました。最終的にどうなったかという、そういう働き方をしたいなら、別の会社に行ってくださいということで、半分くらいは実質的に解雇しました。今の自分の会社でも、そういう働き方をしたければ、残念ながらあなたの席は高いので、うちの会社では無理ですよ、別のところへ行ってくださいということになっています。男性陣からは、どうして女性陣は優遇されるのかとよく言われます。バッシングしているわけではなく、自分たちは外資系にいたときは、日本のダイバーシティというのは、ただ単に女性が有利という意味と見ていました。女性の特権みたいなもので、外資系、海外ではありえないことです。その象徴が女性専用の電車で、あれはイギリスやアメリカでは違憲です。男性の問題であると同時に、女性自身の問題でもあると思います。ある程度の仕事でいい、そんなに給料は欲しくないと結構言われます。どうすればいいのかという、行政の話だと思いますが、きちんと働きましようと思えていくしかない</p>

	<p>のではと思います。社会のモラルの問題。自分の会社では女性陣にもプレッシャーを与えていまして、男性の3分の2の仕事しかしないのであれば、育成するコストを考えると、そんな余裕がない。違う人と変えますよということにしています。</p>
B委員	<p>かなり根源的な話になってきましたが、市長ご意見いかがですか。</p>
市長	<p>女性自らキャリアを選ぼうとすれば、選べるようになってきており、市でも実力があれば管理職になっていきます。</p> <p>ただ、国民性なのか、夫婦のトータルの所得として人生設計を立てていて、男性が正規であれば、女性はパートで補うというような考えがまだまだ多いのではないのでしょうか。</p>
D委員	<p>ヨーロッパの考え方ですが、スウェーデンやフィンランドでは、女性の平均給与、就職率はほぼ男性と同じになっています。なぜそうなっているか調べてみると、男性であろうが女性であろうが、国にかけているお金は一緒であるから、それに対して応えてもらえないのは罪であるとの考え方が強いためです。そのため、差をつけることはあまり認められていない。なぜそうなっているかという、規模が小さい、何百万人程度の国民しかいないわけで、このような考え方でなければ先進国として維持ができないとの側面もあります。日本との国の規模で考えると、このような国の状況は関係ないように思えますが、和歌山県のみで考えると、北欧のような規模の国が参考になるはずで、少子化で人が減っていく状況で、投資している金額に対して最大限返してもらえないと、和歌山県や和歌山市が成り立たなくなってしまうのではないかと、今日の議論であると思います。</p>
G委員	<p>おそらく戦後の経済成長の中で、高学歴の女性を、昔の言葉で言うと「お茶くみ、コピー取り」として働いてもらってきた面があります。そういった方々が結婚を機に会社を辞めてしまう、しかしすごく投資をされているということで、そういった女性を一番上手に活用したのが公文であって、それなりの所得を得ることができているのではないかと思います。ビジョン素案にコミュニティビジネスの事例が紹介されていますが、そのような選択肢、新しいビジネスとして始めるということに目配りをするということや、トータルの所得を上げることは、子育てにとっても重要なので、個別具体までは難しいと思いますが、その辺りをビジョン素案に入れてもいいのではと思います。</p>
B委員	<p>今までの意見を反映して、次回までに産業振興ビジョン素案に手を加えてください。よろしくお願いします。</p>